



昇段レポート



本 多 邦 充 初段 (岐阜太田道場)

～2024年12月8日 収得～

自分が太田道場に入門したきっかけは、当時小学2年生だった長男に逞しく成長して欲しい、そのために空手が良いだろうと考えたからでした。43才の時でした。そして父親である自分も一緒に習った方が、長く続けられるとだろうと思ったからです。見学に行くと、こちらが圧倒される熱量を持った方がいて、その方が太田師範でした。始めてみると見た目以上にきつい基本稽古や型、ミットでは息が上がり、組手では痛い…。ただ息子が見ているし負けられないという気持ちで頑張りました。

続けていくと、自然に太田師範の言葉を聞くことも多くなり、空手を習う意味が少しづつ変わっていきました。「最初の一回がその人の実力。その一回のために努力しよう」「礼を守り、筋を通して人に謙虚になるために、自分自身が強くならないといけない」「何事があっても慌てない心を、稽古を通して身に着けよう」ある日、試合に出場しないかと言われました。その時に「前に出るんだよ、前に。結果じゃないんだよ」という言葉で、出場することを決めました。とにかく今出来る事をやろうという気持ちになり、稽古をさらに励む力に変わりました。そして試合も何回も出場することで不安や怖さもありましたが、逃げずに体験をして自己を高められ、対戦者との交流も出来ました。

合宿も毎年参加して、稽古、ランニング、食事、、演芸会では本多親子が一番輝ける場となってしまって道場生の方々に拍手を頂きます。稽古でも目立つようにしたいです。

今回、昇段審査のお話を頂いた時に『いつも調子の良い時なんか無い。その時が来たら“押忍”的一言で受けるよ』との一言で気持ちを固めました。

あれこれ考えず、一つ一つ出来ることを積み重ねていこう、そう決めて当日を迎えました。当日は緊張して力が入りすぎて直ぐ息が上がりしました。失敗した所、上手くいかなかった所、反省することは多くあり、最後までやり切れるかと不安になりましたが、皆様の応援や視線が自分の背中を押してくれました。

何とか最後までやり切ることが出来ましたが、日が経つにつれ「本当に“黒帯”になれたのかな?」と自問してしまいます。

黒帯になった事で新たな役割が求められるのだろうと思います。また、新たな“強さ”が求められるのだろうと思います。その時、自分はどのように振る舞えるのだろうか…。

あれこれ考えず、一つ一つ出来る事を積み重ねていこう、そのための“昇段審査”なのだろうと思っています。

最後に、日々叱咤激励して下さる太田師範、いつも励まして下さる諸先輩、一緒に汗を流して下さる仲間の方々に感謝申し上げます。

今後もよろしくお願ひいたします。

押忍